

土田 英貴
川口 晃平
松山 隆之

大日方 寛

原岡 一之
正昭 小寺真佐人
幸 小野寺竜一

間 山本 則重
山本 凜太郎

後見 梅若 基徳
小田切康陽

梅若雄一郎 井上 療治
河本 望 鷹尾 章弘
内藤 幸雄 角当 直隆
井上 和幸 山中 迅晶

狂言

口真似

山本 則孝

山本凜太郎
山本 則重

仕舞

山葛巴

姥城

梅若 基徳
角当 行雄
山本 博通

鷹尾 雄紀
章弘 紀彰
小田切康陽
小田切亮磨

《休憩十五分予定》

山崎友正
山崎正道
絹 惣神楽

福王 和幸

亀井 広忠
桜井 均
田邊 恭資
竹市 学

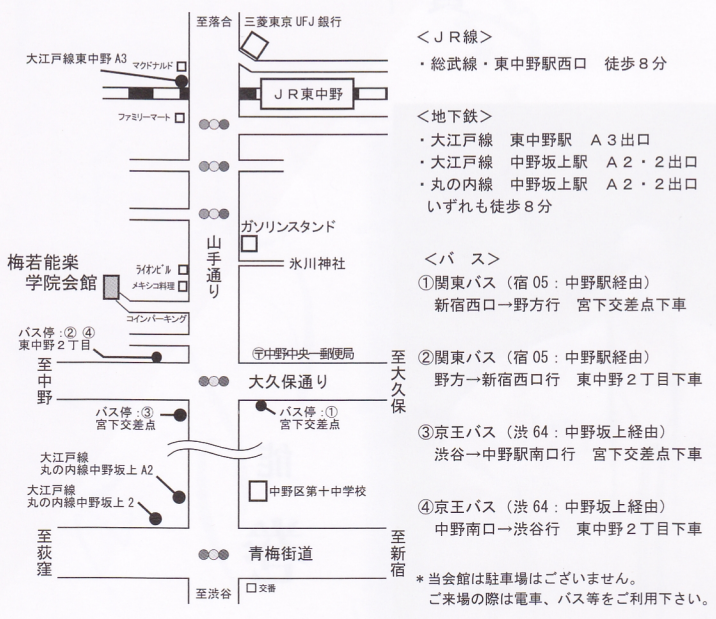
間 山本 則秀

後見 川口 晃平
梅若長左衛門

梅津千代司 井上 和幸
土田 英貴 角当 隆雄
山本 博通 梅若 玄祥
地謡 梅若 行雄

『氷室』〜ひむろ〜亀山院に仕える臣下が丹後から帰る途中、若者をつれた氷室守に会った。臣下が氷室のいわれを尋ねると、昔仁徳天皇の頃、帝が六月なれば狩りをされたが、時節外れの冬のような寒風が吹きつけ、見ると山陰の屋の内に氷を貯えている一人の翁がいた。老人は氷には、紫雪や紅雪の薬の雪があるといい、それを帝にそなえた。この時が帝の御食膳に氷が供えられたはじめであり、その後諸所に氷室はできて、ここにも定められたと語る。老人は今宵は山神木神が氷室を守護する神事があるといい、氷室の中へ消え失せる。いつしか楽の拍子に乗った天女が現れ舞を舞い、山河が震い動き氷室明神も現れ、日々氷を守護し、御調物として夏季に帝へ捧げると語る。

『巻絹』〜まきぎぬ〜今上皇帝の霊夢により、諸国から千疋(びき・約二十M)の絹を集めて熊野三社に奉納することとなったが、都からの使者は熊野の山に着き、先に音無天神に参詣し、和歌を手向け遅参した。勅使は遅れた使者を従者に縛らせると、そこへ巫女が現れ「その縄を解け、この男は昨日音無天神に歌を手向け、自分はそれに感応して受け入れた」という。巫女には天神が憑いているらしく、その証拠に彼に上句を詠ませようと言い、使者が上句を吟ずると、巫女があとをつけた。心中に詠んだものでも、通力をもつ神は知っている。和歌は日本の陀羅尼で、有難い章句なのだと言い、巫女は祝詞(のりと)を捧げ、神楽を舞う。巫女は熊野全山の神徳を説くが、やがて神霊は離れて巫女は正気にもどる。



〒164-0003 東京都中野区東中野 2-6-14
公益財団法人 梅若会 (梅若能楽学院会館)
TEL : 03-3363-7748 FAX : 03-3363-7749

- 【観能チケットについて】
- 1. 自由席 7,000円 指定席 8,000円 学生席 3,000円
- 2. 賛助会員券(定式能)および自由席をお持ちの方は1,000円プラスで正面のご希望のお席を確保いたします。公演1週間前までにお電話にてご予約下さい。準賛助会員券(梅流会)をお持ちの方は1,000円プラスで自由席にてご観能可能です。
- 3. チケットはお電話、またはファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望席種をお書きの上お申し込み下さい。TEL 03-3363-7748 FAX 03-3363-7749) なお梅若会ブログにでも受け付けております。(パソコン: http://umewakanoh.exblog.jp/ 携帯: http://mblog.excite.co.jp/user/umewakanoh/) 詳しくはお電話にてお問い合わせ頂くか梅若会ブログをご覧ください。
- 4. 都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。*ロビーにて軽食、コーヒー、ケーキ等の販売がございます。皆様ご利用下さい。

